ステップ 2 の受理確率

Δ: 評価関数値の差 (正 $\Longrightarrow$ 改悪解)

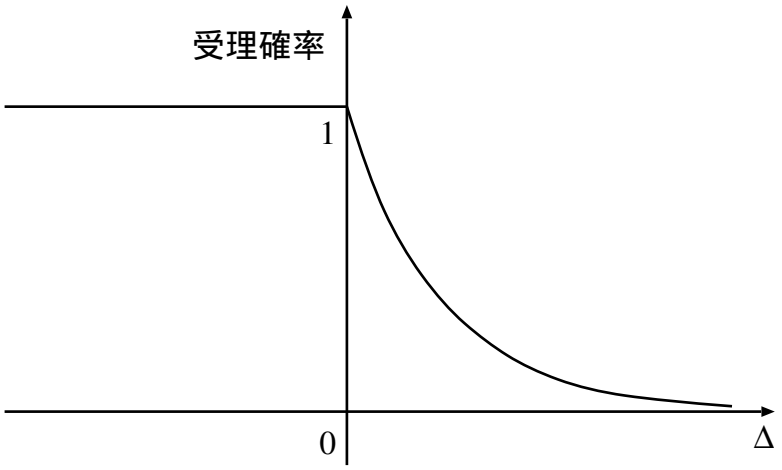

図 4.7 アニーリング法における解の受理確率 $\mathrm{e}^{-\Delta/t}$

1 次元の探索空間におけるアニーリング法の動作の様子

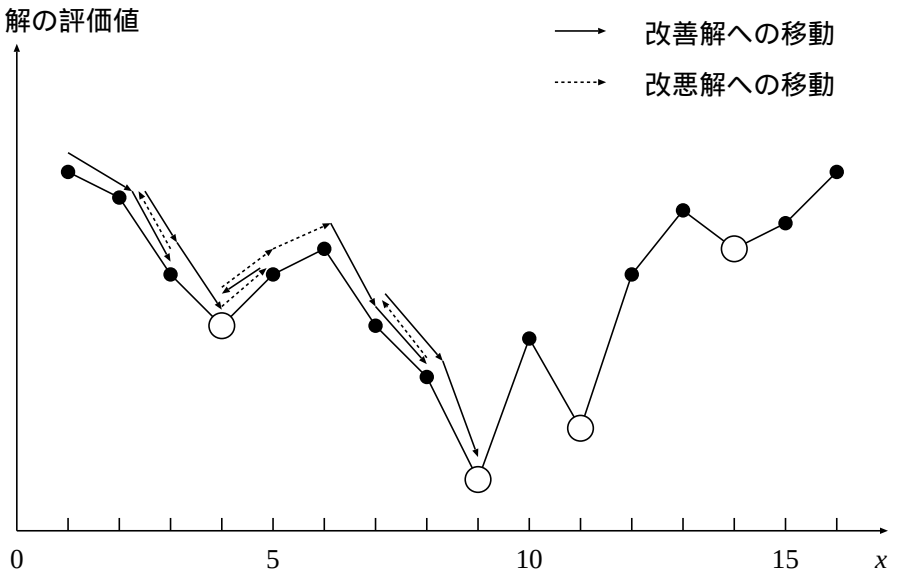

図 4.8 アニーリング法の進行の様子

確率的に改悪解へ移動 → 改善解があるのに逆戻りすることも .

解の評価値に応じた遷移確率 → 大局的にはよりよい解へ探索が進む .